

多良海道と海道沿いの史跡他



山茶花の茶屋後案内板



山茶花溜池付近の海道



多良海道記念碑



海道沿いの八天宮

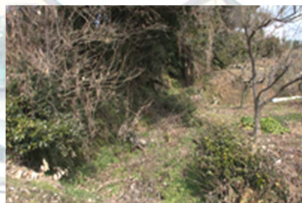


嘉瀬の坂より小田方面へ

多良海道七曲付近 (小田地区)



壇徒坂の六地藏



百度道(針牟田)



石垣が残る夏坂



矢筈道~片峰へ通じる長坂



岳の新太郎の墓



多良へ向かう矢筈入口

多良海道について

長崎街道 (小倉~長崎間 57里:228km)のうち、江北町の小田宿~百貫 (白石町)~鹿島 (鹿島市)~浜 (鹿島市)~多良 (太良町)~湯江 (諫早市)~諫早市の永昌宿までを通る道のこと、長崎街道多良往還・長崎街道多良通り道筋・多良海道などと呼ばれてきました。

この多良海道は、長崎奉行や佐賀藩主の長崎警固の際に利用していた有明海を縦断する海路が時化や潮の影響で陸路に変えた時に利用した代替道としての役目を持っていました。

また、この道は佐賀本藩の処分に対し不満を持つ多良海道沿いの村々の農民や武士が、寛永3年(1750年)多良に集結して巻き起こした「諫早一揆」の舞台でもありました。

多良岳山系の中腹を通る多良海道からの有明海の展望や六地像などこの沿線で見られる文化遺産を活かして、誰でも利用できる歴史と観光を融合した散策道として、平成21年から2年かけて太良町教育委員会が、沿線の除草、雑木の伐採、簡易階段の敷設や案内板・標柱設置等、整備を行いました。

岳の新太郎像について

この唄は、その当時、女人禁制の金泉寺にいた美男子の新太郎に思いを寄せる村娘達の慕情を歌ったもので、多良岳東南の山麓一帯に広く伝えられている民謡です。そのお囃子から「サンザ」とも呼ばれています。「サンザ」といってお囃子は、多良岳から下る道中の風物詩だった水車がたてる「サアザ」という水の音、新太郎にときめく村娘達の恋心のざわめきをかけたものだという説があります。

この唄は、その当時、女人禁制の金泉寺にいた美男子の新太郎に思いを寄せる村娘達の慕情を歌ったもので、多良岳東南の山麓一帯に広く伝えられている民謡です。そのお囃子から「サンザ」とも呼ばれています。「サンザ」といってお囃子は、多良岳から下る道中の風物詩だった水車がたてる「サアザ」という水の音、新太郎にときめく村娘達の恋心のざわめきをかけたものだという説があります。

岳の新太郎は、「サンザ サンザ」のお囃子で親しまれている佐賀を代表する民謡「岳の新太郎さん」に登場する人物で、多良岳の山頂近くの金泉寺の寺侍であり文化・文政(一八〇四~一八二九年)時代の人と伝えられています。



J R 多良駅の幸せの鐘

ようこそ多良駅へ
 太良町は
 月の引力が見える町、海
 の幸・山の幸・温泉が豊
 かな町
 多良駅は良いことが多い駅
 この鐘は皆様に幸せを提
 供します。

一つ鳴らすと
 「幸せを呼ぶ」
 二つ鳴らすと
 「二人が幸せになる」
 三つ鳴らすと
 「皆が幸せになる」

太良町
 観光歴史マップ



岳の新太郎
 多良岳の山頂近くに金泉寺の寺侍として勤めた新太郎は、その美男子の容姿と、村娘達の慕情を歌った民謡「岳の新太郎さん」に登場する人物で、多良岳の山頂近くの金泉寺の寺侍であり文化・文政(一八〇四~一八二九年)時代の人と伝えられています。

太良町観光協会
 プラスまちづくり

太良町の地図

観光歴史マップ

- 凡例**
- : 史跡 or 名所
 - 社 : 寺
 - ⌂ : 神社
 - ⌂ : 城址
 - : 多良海道



道の駅太良の
岳の新太郎像



JR多良駅の幸せの鐘



海中道路 & 海中鳥居



六地藏



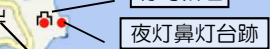
夜灯鼻灯台跡



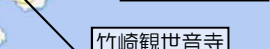
竹崎観世音寺



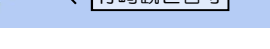
道越古墳



比翼塚



竹崎城址



夜灯鼻灯台跡



竹崎観世音寺